

こんなとき どうする？

【平成29年度 鹿島中学校グランドデザインから】

〈スローガン〉 「ほめる」「認める」「励ます」、具体的な言動を通して！

心から “声”を聞こう，“声”を出そう，“声”をかけよう！ そして笑顔を！

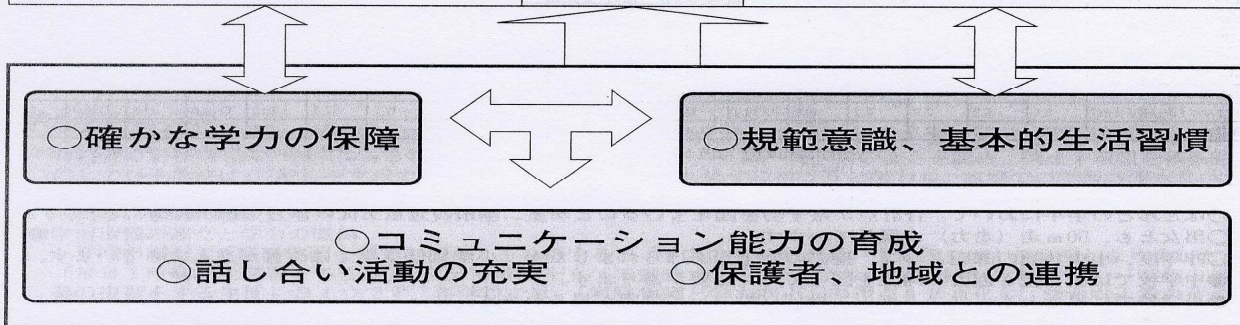
〈組織目標〉

- (1) 主体的・協働的に学ぶ学習を要とした指導法により、確かな学力の習得と活用を図る。
- (2) 教師、生徒共に自他のよさを認め合える人間関係を形成する。

○生徒指導の機能を生かした授業づくり・学級づくり

～児童生徒が自己実現を図っていくための自己指導能力の育成を目指して～

生徒指導の機能を生かした 授業づくり		生徒指導の機能を生かした 学級づくり
○課題選択・課題設定の場がある授業 ○問題解決型の学習の工夫 ○学び方を選択する場のある授業 ○考える時間の確保、考察の時間の充実	自己決定 自分で選択したり、決定したりして実行すること	○自己目標設定への支援や面談の実施＊ ○自らの取組の自己評価の実施 ○問題解決的な取組による自治的態度の育成（創意ある係活動、学級・学校行事）
○わかる、できる喜びを感じる授業 ○個に応じた指導（効果的なＴＴ、少人数指導と適切な評価の実施） ○自己表現の場がある授業 ○一人一人のよさや特性を生かした授業	自己存在感 自分は価値ある存在であることを実感すること	○安心して個性が発揮できる学級づくり ○一人一人が活躍できる場と機会の設定 ○誉め、励ます言葉かけの実践＊ ○達成感・有用感のある学級活動、互いの意見を大切にする話し合い活動
○互いの考えを交流し、互いのよさを学び合う場のある授業 ○多様な考えが出る授業（発問の工夫） ○人権教育の推進、道徳の時間の充実 ○言語活動の充実	共感的人間関係 ありのままに自分を表現し、理解し合える人間関係	○一人一人が大切にされる雰囲気の醸成（人権意識） ○仲間意識を育む体験活動の有効活用（心ゆたかな体験活動、JRC活動、ボランティア活動、地域の人々との交流） ○SGEやSSTの活用 ※SGE：構成的グループエンカウンター ※SST：Social Skill Training ○「いつでも、どこでも、誰とでも」の個別面談、個別指導＊



※裏面参照（◆事件・事故発生時の報・連・相体制、◆保護者との信頼関係の構築）

事件・事故発生時の報告・連絡・相談の体制は機能していますか？

◎大切なことは、「未然防止」「早期対応」「二次被害の防止」に努めること

【事故の発生から報告への流れ】

事故の発生

↓
第1発見者

↓
報告

・生徒指導主事
・学年主任、担任、養護教諭等
・管理職（校長、教頭）

↓ → → → →

↓
関係者への連絡

・児童・生徒
・保護者等

↓
関係機関への報告

・市教育委員会
・警察等

【校内の報告・連絡・相談の体制】

○事故の発生状況の把握

・5W1H…「いつ」「どこで」「誰が」「誰と」「どんな状況で」「どうなったのか」

○第1発見者からの報告

・緊急度の判断
（応急処置、救急搬送等の必要性）
・誰に報告すべきなのかを判断
（日頃からマニュアルの確認）

○報告を受けた者からの適切な指示

○関係者への連絡

○関係機関への報告

○記録、報告文書への対応

○夜間や休日の場合の連絡体制の確認

【関係機関への報告・連絡】

○市教育委員会へ第1報

・まずは電話で、できるだけ早く
・事故報告書での報告
正確で必要な内容を簡潔・明瞭に
参考となる資料は精選して添付
・市教育委員会と情報を共有する（共に解決に向けて取り組む第一歩）

○関係機関への報告

・救急搬送の要請
搬送先の病院名の報告を忘れずにけが等の程度の状況の報告
・警察への報告、連絡、相談
「児童生徒の健全育成に関する警察と学校との連絡制度」の活用

- 報告については、危機が去ったか否か等を明確にして見極めを大事にすること。
- 事故等の収束後も、市教委及び関係機関へ経過を連絡すること。
- 「起こったことは仕方ない」…拡大させないために、情報を共有すること。

保護者との信頼関係の構築を大切にしていますか？

◎大切なことは、「初期対応」・「誠意ある対応」・「解決に向けた方向性を示すこと」

◇保護者との信頼関係づくりの基本的な考え方 「保護者も教師も願いは一つ!!」

- ①保護者はよいパートナー
- ②保護者との信頼関係づくりは、相互理解・共通理解がカギ
- ③担任や学校への要望や訴えは、改善への貴重な意見

◆適切な初期対応

- 保護者の心に寄り添った対応を
- 傾聴に徹すること
- 主訴をとらえること
- 対応をあせらないこと
- 話を整理して対応すること

◆学校と保護者がよりよい関係を築く4つの視点

【視点1】

何かそうせざるを得ない事情がある

【視点2】

保護者は子どもの一番よい点を知っている

【視点3】

家族の思い（しんどさ）を感じる

【視点4】

できる範囲で子育てに協力していく

◆電話を受けた場合の対応

- ①誠実で丁寧な態度で接すること
- ②保護者等の言い分を最後までしっかりと聴くこと
- ③対応をあせらないこと

◆来校者の場合の対応

- ①来校者を待たせないこと
- ②複数で対応すること
- ③「親切に」「丁寧に」「正確に」「迅速に」を基本姿勢とすること

教職員の好感もてる『言葉づかい』や『電話の応対』などの接遇マナーは、保護者や地域の方々に信頼される学校づくりを進めていく上で重要な要素の一つです。